

短節間実エンドウ ‘光丸うすい’ の初期収量向上技術

農業試験場暖地園芸センター 主任研究員 宮前治加

【要約】

短節間実エンドウ ‘光丸うすい’ の秋播きハウス冬春どり作型において、開花・収穫開始時期を前進させるには、①播種日を ‘きしゅううすい’ より5日早める、②長日処理期間を4週間（0-10葉期）と慣行の2週間（3-8葉期）より長くする、③低温期に登熟した種子を用いることが有効であった。

【背景・ねらい】

産地で発見された実エンドウ ‘光丸うすい’（品種登録申請時 ‘みなべ短節間1号’）は、草丈が低く収穫や誘引作業の省力化が期待できるが、主要品種の ‘きしゅううすい’ より開花が遅く、初期収量が少ないという課題がある。そこで、‘光丸うすい’ の秋播きハウス冬春どり作型において、初期収量の向上に有効と考えられる開花・収穫時期を前進するための播種時期、開花促進処理方法、低温期に登熟した種子の利用について検討した。

【成果の内容・特徴】

- 1) ‘光丸うすい’ を9月10日から10月5日まで5日おきに播種すると、播種時期が早いほど収穫開始時期が早く、初期収量が増加した。また、‘きしゅううすい’ より5日早く播種すると、‘きしゅううすい’ と同時期から収穫できた（図1）。
- 2) 開花促進処理として、電照による長日処理期間を4週間（0-10葉期）とすると、慣行の2週間（3-8葉期）に比べて開花開始日が2日早まった（表1）。
- 3) 登熟期の気温が異なる1月、4月、5月に開花した莢から採種した種子では、開花開始日は1月開花種子（低温期に登熟）で最も早く、最も開花の遅れた5月開花種子（高温期に登熟）よりも7日早く開花した（表2）。

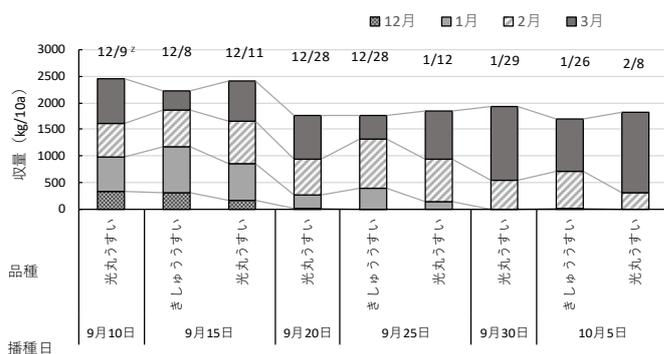


図1 ‘光丸うすい’ および ‘きしゅううすい’ における播種時期と時期別収量

注) 9月10日、15日播種区は種子冷蔵処理（2°C、20日間）、9月20日、25日、30日、10月5日播種区は電照処理（0~8葉期、白熱電球による終夜照明、ただし10月9日~12日は除く）

※ 収穫開始日

表1 ‘光丸うすい’ における電照処理期間と開花開始日

電照期間	処理葉期 ² (葉)	開花開始日 ³ (月/日)
2週間	2.6~7.1	12/2
3週間	2.6~9.7	12/3
4週間	0~9.6	11/30
無処理	—	12/28

注) 2020年10月5日に25Lポットに播種、

区制: 1区4株、4反復

電照処理: 白熱電球による終夜照明

² 不完全葉除く展開葉数

³ 各区中間2株による平均値 (2株/区の4区制、n=8)

表2 ‘光丸うすい’ における種子の開花時期と初花房節位および開花開始日

種子の開花時期	初花房節位 (節)	開花開始日 (月/日)
1月	18.0	11/16
4月	20.5	11/21
5月	21.7	11/23

注) 播種日: 2020年9月30日、区制: 1区15株、2反復 3~8葉期に白熱電球による終夜電照処理を実施